27. ミシシッピー川

①

水源はミネソタ州の北西部でカナダ国境に近い山間部にある小さな氷河湖であるイタスカ湖が水源で、ミネソタから河口のルイジアナまで 10 州におよぶグレートプレーンと呼ばれるアメリカの豊かさを象徴する穀倉地帯（コーンベルト）の中心を流れる全長 6019km の北米最大の大河です。

北米大陸は大西洋の沿岸に沿ってアパラチヤ山脈が連なり、太平洋側はロッキー山脈が連なっており、その間にグレートプレーンと呼ばれる中央大平原がありますから、山脈の分水嶺により内部に流れる川の全てがミシシッピー川に流れ込む支流になります。しかも平原ですから流れは緩やかで水運に適しているため、大穀倉地帯で生産される小麦、大豆、玉蜀黍等がイリノイ川やその他の支流沿いにあるグレーンエレベーターと呼ばれる穀物専用倉庫に集荷され、これらを専用のバージ（平底の箱船、自走能力はない）に積み込まれ、これを十隻程度連結しタグボートが曳いて支流からミシシッピー川の本流に出て 3〜4 ノット（10km/h 以下）程度でゆっくりと川下りで、約 1 ヶ月程度で積出港であるバトンルージュ港まで運ばれます。この港はニューオリンズのやや上流に位置し、ここまでは 3 万 D/W クラスからパナマックス型（6 万 D/W）迄のばら積み貨物船がミシシッピー川を遡行できますので北米最大の穀物積出港です。この外にもミシシッピー川沿いの下流にはグレーンエレベーターがあって穀倉地帯での集荷、バージによる川下り、ばら積み船への積み込み、パナマ運河を経由して太平洋横断、約 3 ヶ月の長旅の末、我が国民の胃袋に繋がるのです。パンやうどんを食べるとき一寸思い出して下さい。

バトンルージュ市はルイジアナの州都でニューオリンズに次ぐ都会ですが、観光都市ではないのであまり有名ではありません。

このバトンルージュ市で 1992 年 10 月大事件がありました。それは日本人高校生が交換留学生として滞在中、ハロウィンパーティーに参加しようと間違えて訪問した家の主か不法侵入者としてピストルで射殺してしまった事件です。その際「フリーズ Freeze」（止まれ）（動くな）を「Please」と聞き違えたのではないかと言われていますが、多分その通りでしょう。外国人である我々としては Freeze＝凍る、寒く感ずると理解しても「止まれ」の意味があるとは思いもつきません。しかしアメリカでは普通に使っていますから語学の勉強は現地で覚えるのが最良の方法です。私達が授業で習った英語は Kings English ですが Americn English と同じと考えてアメリカにやって来て全然通用しない英語力に愕然とし、そしてここ南部の訛（Deep South English）りの凄さにお手上げになります。

またアメリカの銃社会が問題になりました。何しろ至近距離（2.5m）で 44 マグナムを発射したのですから脅しではなく完全に射殺を意識してのことでしょう。この 44 マグナムは 44 口径（11.2mm）世界最強の拳銃と言われており、映画「ダーティハリー」でクリントン・イストウットが演じる主人公ハリー・キャラハン刑事が愛用していたもので、ガンマニアにとっては憧れの銃なのです。多分射殺犯もガンマニアだったのでしょう。

銃、ついでに私の情けない話を綴ります。ニューオリンズで仕事を終えてグレーラインのターミナルでバスのタイムテーブル（時刻表）を調べていましたら背中がゴリゴリするので振り向いたところ屈強な大男が二人ピストルを突きつけており、次の瞬間首を掴まれて仰向けに倒され、コンコースに倒されまま身体検査され、最初強盗かと思いましたが、白昼、しかも大勢人のいるバスターミナルですから変だと思っていたら、我々はイミグレーション（入国管理官）だと名乗り、オマエを密入国で逮捕すると通告、私は日本人だと言っても、パスポートを見せてもそれは偽造だと言って全く取り合わず、何よりの証拠はオマエの英語の訛りはメヒコそのものだとすっかり貧しいメキシコ人の密入国者にされてしまい、檻（モンキーボックス）になった小型トラックに載せられ、郊外にある収容所に放り込まれて取り調べはなし、食事もなく 1 枚の毛布にくるまっての異国の地の 1 夜は本当に寂しいものでした。

②

翌日取り調べが始まり紐育の本社に電話してもらい身分が明らかになってやっと釈放になりましたが、釈放になって外へ出てみたら周りに人家はなし、原野のなかに収容所があるだけですから、バスラインもタクシーも無し、しかも自分が何処にいるのかも判らない路頭に迷うどころか、原野をさ迷う小羊のようなものでトボトボ歩いていたらやがて小型トラックが通りがかり何処でも良いからバスが通っている所へ連れて行ってと 10 ドルをヒラヒラさせながら懇願し、その後バスを乗り継いでなんとかニューオリンズに戻ることが出来ました。しかしこの程度はまだ序の口、中東やアフリカ諸国ではまさに命がけの大冒険の連続でした。仕事とはいえこんな生活を何十年も続けてきたのは精神構造のどこかに欠陥があるからかも知れません。

暗い話は気が滅入りますから明るくいきましょう。ニューオリンズで真先に思い浮かぶのはジャズの本場でしょう。その中心はフレンチコォーターで軒並みジャズを奏でております。中世のフランス風建物が連なる一ッ区がこの街で最大の繁華街です。観光客もここが目当で世界中からこのジャズ発祥の地にやって来ます。

ルイジアナは豊饒の大地で綿花，砂糖黍が栽培され、そのため労働力としてアフリカから大勢の黒人奴隷が連れ来られ、その子孫達が西サヘル（サハラ砂漠の南縁）ギニア湾沿いの

ブラックアフリカの民族音楽と西洋音楽の良いとこ取りでできたジャズがこの地で産声をあげ、その後この地出身のオリジナル・デキシーランド・ジャズバンドが商業レコードをだして全米に爆発的に広がったのです。私達世代は戦後進駐軍と共に舞い込んできたこの軽快なジャズに心を奪われ遙かなる豊かなアメリカに憧れたのです。そして映画です。

ニューオリンズが舞台の「欲望というなの電車」ビィビィアン・リー、マーロン・ブランド主演のこの映画でアメリカでの生活を垣間見ることが出来、南部を背景にした「風ともに去りぬ」、「雨のニューオリンズ」ナタリー・ウッド、ロバート・レッドホード、その他「ホワイトクリスマス」「雨に唄えば」等によって、かって鬼畜米英とたたき込まれていたのが完全に洗脳され、いつか彼の地を訪れようと密かに心に誓っていた憧れの地なのです。

そして夢が叶って最初に訪れたのはフレンチコォーター、ジャズのライブで初老といえる黒人のオジサン達が楽しそうに奏でる本場のジャズを楽しみ。次はニューオリンズ名物路面電車、1835 年に開通した世界最古のトローリー電車で「風と共に去りぬ」に登場する南部の大邸宅の様な雰囲気の中をクラーク・ケーブル演ずるバトラー船長になったつもりで馬車ならぬクラシックそのもの電車に乗って隣にはビィビィアン・リーが座っていると空想しながら美しい街路樹の中を走るセント・チャールス線に乗って何往復したことか、心ゆくまで堪能しました。

③

しかしハリケーン、カトリーナの直撃を受け大被害を受けたと報じられているので電車はもう走っていないのかもしれません。

このルイジアナはフランス風の建物が多くあり、母体をフランス語とするケイジャン語を話す人がいたりでフランス圏文化が色濃く残っています。新大陸発見後の 1528 年スペインの探検隊がミシシッピー川を遡航していますが、あまりの広大さからか全く関心を示さず占有宣言をしておりません。その後 1682 年フランス領カナダから南下してきたフランス人のロベール・ラ・サールの探検隊がミシシッピー川を下って河口付近に至り、沿岸を含めた広大な大地の領有を宣言、この地をフランス皇帝ルイ 14 世にちなんでルイジアナとしてフランス本国から移民、開拓者を呼び寄せたのです。ですからフランスの植民地として出発し、その拠点としてヌーベルオルレアン（フランス語で新しいオルレアン）と命名された地に行政府が築かれ、これが後にアメリカ風に改名されたニューオリンズです。

その当時フランスとは常に敵対していたイギリスはどうしていたかというと、大西洋岸沿いの海岸平野に停まり、アパラチャ山脈を越えると無限の平原があることに気付かなかったのです。西部開拓、お馴染みの西部劇が始まるのはこの後のことです。

やがて独立戦争に勝利した結果、アメリカは独立を宣言、一方ルイジアの本国政府であるナポレオン政権は常に戦争をやっており、戦費調達に困ったナポレオンはこの植民地全てを

アメリカ政府に売り渡してしまうのです。当時のアメリカ政府は大西洋岸の 13 州を支配しているに過ぎなかったのですが、これで倍以上の支配地ができたのです。ついでに言えばアラスカもロシアから買収したものです。

ですからアメリカ中を歩き回ると世界中の風俗習慣が点在しており新旧が織りなす面白さに興味は尽きない国です。さらに地質学的にも地球誕生からの歴史の跡を辿れます。

最期になってしまいましたが、メキシコ湾からミシシッピー川を遡航してみましょう。メキシコ湾はフロリダ半島からメキシコ迄の大きな湾ですが、その中央部には大海底油田とガス田があり、湾内には多数の採掘櫓が林立しており夜間は標識の赤色灯が無数に灯されて海上の不夜城です。其処を抜けると湾に大きく突き出た半島のようなデルタがあり、これが有名なミシシッピーデルタで何世紀にもわたりミシシッピー川が運んできた土砂が堆積してきたもので、これが細長く何十キロもあるのですから壮観です。僅かにな灌木と草がある程度で広大な干潟ですから小動物の天国でしょう。その間を流れるミシシッピー川に入って遡航開始です。大平原を流れる大河の常としてくねくねと曲がりながら流れており、更に川幅は広いのですが土砂の堆積で浅いですから大型船専用の航路が設定されており，そのブイ通りに航行しないとたちまち座礁です。ですからミシシッピー川独特の外輪船があり、デズニーランドでお馴染みのあの外輪船ですが、これは船尾に水車のような仕掛けで羽根を回転させて航行するのですが、これは河が浅くてスクリューやラダーが使えない為で、これだと浅いところでも自由に航行でき観光船としては最適です。

④

このミシシッピー川をモデルとした「トムソーヤの冒険」作者マーク・トェインはペンネームですが、By the mark Twain （マークトゥィン）約 2 尋（180cm）は川を航行できるぎりぎりの水深が 2 尋でこれをペンネームしています。

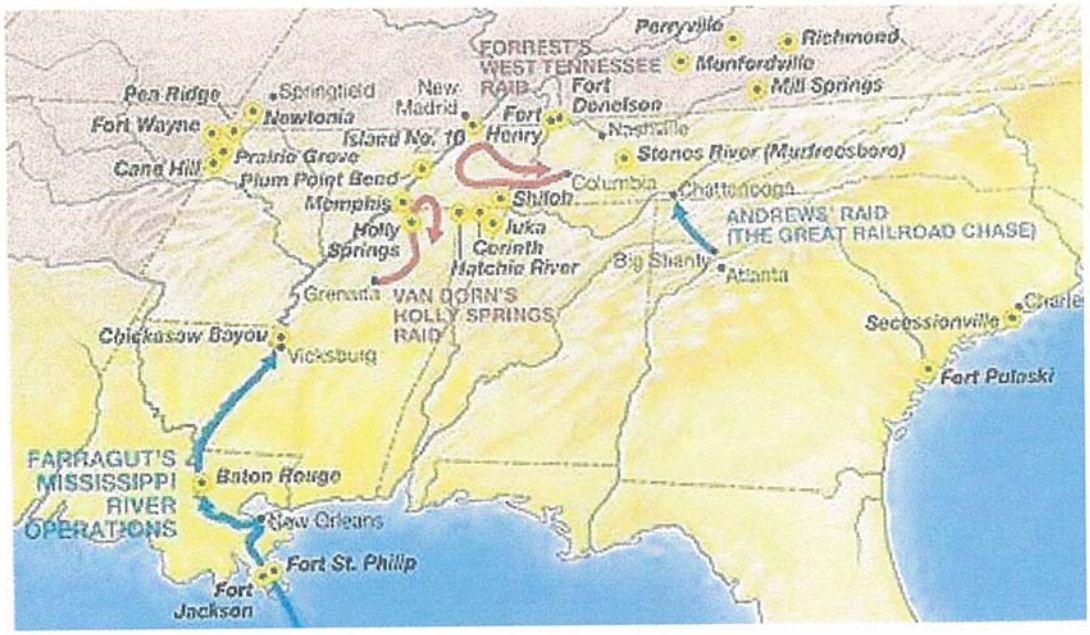
河口から 5 時間くらいでグレート・ニューオリンズ橋がみえてきてやがてニューオリンズ着、バトンルージュはまだ先です。もう一つメキシコ湾からポンチャートレイン湖に直接繋がる運河がありここを航行してニューオリンズ郊外で荷役をしたことがあります。

この湖に架かるコーズゥビイは世界最長の橋で上下二本の橋が並行にあり TV の CM やカーアクションドラマによく登場します。なにしろ全長 38.4km あり直線ですが橋の端は全く見えません。ア～！何もかも巨大なのがアメリカだ～。

写真解説

① まもなくグレート・ニューオリンズ橋をくぐると岸壁が直ぐです。バトンルージュ港はさらに上流です。

② グレート・ニューオリンズ橋の真下

③　ニューオリンズ市内外を走るレトロな路面電車

④　ミシシッピー川特有な外輪観光船、現役で活躍しています。